

平成30年度 第2回 新潟市立白根図書館協議会 議事概要

日 時： 平成30年12月4日（火） 午後1時30分～3時

場 所： 白根学習館2階 ルーム2

出席者： 新潟市立白根図書館協議会 大江会長、藤村副会長、阿部委員、近藤委員
齋藤委員、関根委員、星野委員、本間委員
事務局 松田白根図書館館長、伊藤主任、本間主査、佐久間主査、大瀧主査

1 開会

2 館長あいさつ

3 議事

(1) 平成29年度決算報告について

(事務局) 案件概要説明

(阿部委員) 資料購入費についてだが、金額だけでなく購入点数も記載があったほうが分かりやすいのではないか。1冊あたりの単価も年々上がっている。例えば資料購入費が増えることがあっても、購入点数自体は減っているかもしれない。金額と冊数両方あると統計的によいのではないか。

(2) 平成29年度図書館評価について

(事務局) 案件概要説明

(藤村委員) 学校への団体貸出が増加しているのは、学校の図書予算が減っているために市立図書館がサポートすることが増えていることもあるのではないか。

(大江委員) 学校では、調べ学習の部分などで市立図書館からの団体貸出を大変活用させていただいている。

(阿部委員) 「ネットワークを活かした課題解決型図書館」とあるが、ネットワークと聞くとデジタルネットワークをイメージしてしまう。例えば、白根市史など、資料をデジタル化するようなことを考えたらどうか。これからの時代はデジタルが重要になってくると思う。

(3) 平成30年度図書館事業中間報告について

(事務局) 案件概要説明

(4) 意見交換

- ・平成31年度の図書館事業について

(事務局) 案件概要説明

(藤村委員) 白根図書館開館20周年記念事業については、図書館創立のときの理念を大切に、費用はかけなくても満足度が高いものを行ってほしい。市民の力を借りるといって図書館は遠慮しがちだが、どんどん協力をお

願いしたらよいと思う。力を貸した側は必ず満足を感じてプラスの効果があると思う。

(大江委員) 20周年記念事業については、今後また話し合う機会はあるか。

(事務局) 来年度の協議会でも話し合っていきたいと思う。

・求められる高齢者サービスについて

(事務局) 案件概要説明

(藤村委員) ブックスタートは小さい子が本に親しむきっかけを図書館がつくる事業だが、高齢者に対しても最初のきっかけを図書館が設定し、その後は自主的に活動できるようにしたらよいのでは。例えば朗読会だったら、まず図書館が基本について学ぶ場をつくり、その後は参加者が自分で朗読を行ったり、他の参加者を集めて活動したりと発展させていくようなことができるよ。

(星野委員) 音声訳をしているが、音声訳と朗読は声を出すという点で似ているところもある。朗読のイベントは以前栗村氏が館長だった頃に行ったことがある。

(阿部委員) 自分のヒストリー探しの手伝いはどうか。お寺の過去帳のようなものを各自で作ってもらい、そこからの調べ方について教えたり、他市町村と連携して資料を提供したりは図書館が行うことができそうだ。

(近藤委員) 憲法を勉強するような講座はどうか。

(藤村委員) どんな講座をするか、誰に講師をお願いするかというそこから市民が関わって考えてもらってはどうか。

(齋藤委員) 地域教育コーディネーターをしているが、必要な人材を地域から探すには、自分からコミュニティ協議会などに働きかけにしている。1人見つけるとその人とのつながりで、次の人がみつかることもある。わらしべ長者のように人と人がつながっていく。図書館も待っているだけでなく、出かけていかないとダメだと思う。

(本間委員) ちらしで募集していてもなかなか応募しようとは思わない。しかし直接声をかけられると喜んで力を貸したくなるものだと思う。

(藤村委員) 積極的に手をあげなくても、皆さん必ず何かをお持ちのはず。図書館がそれを引っ張り出すことができるかが大切なのでは。

4 その他

(事務局) 「教育ビジョン第4期実施計画アンケート」の実施についての説明

5 閉会

【事前配布資料】

次第

資料1 平成29年度 南区図書館・地区図書室決算報告

資料2-1 平成30年度白根図書館中間報告

資料 2-2 平成 30 年度月潟図書館中間報告

資料 2-3 平成 30 年度白根図書館学校図書館支援センター中間報告

【当日配布資料】

資料 3 「図書館評価」について

資料 4 平成 31 年度の図書館事業について

資料 5 平成 30 年度高齢者サービスの取り組みについて

資料 6 平成 29 年度白根図書館・月潟図書館分類別蔵書構成・貸出冊数